

# シンコーフレックス

## 研究開発工場新設へ

### L i B リサイクル技術強化 貴金属など

川島グループ（川嶋義勝代表）のシンコーフレックス（本社＝浜松市中区、鳥居敷馬社長）は来春をめぐり、滋賀県米原市に研究開発型の新工場を新設する。年内着工を計画している。3・4トの高周波誘導炉2基などを導入する予定で、車載用リチウムイオン電池（L i B）や貴金属・レアメタルに関するリサイクル技術の研究開発を進める計画だ。

同社は電動車の普及拡大を見越し、L i B リサイクル技術の研究開発を早期から進め、

L i Bのリサイクルやリユース技術でさまざまな実用化技術を確立してきた。

だが、全固体電池など次世代電池の普及が想定よりも早期に進んでおり、求められ

るリサイクル技術の開発も年々進化、変化している。そのため同社は研究開発力の強化を

目指し、新工場の建設を決めた。新工場は川島グループの三光米原の敷地内に建設を予定している。敷地面積は2・900平方メートル、建屋面積は990平方メートル。新工場ではニッケル、コバルトなど車載用L i Bに関連した素

材だけでなく、パラジウムなど貴金属のリサイクル技術の開発にも注力。新工場の立ち上げで多様な素材への対応力を高め、未来のリサイクル需要をキャッチアップしていく。

川島グループは、アルミ精錬や貴金属スクラップのリサイクル・リユースなど非鉄金属関連分野で、幅広く事業を展開する総合非鉄リサイクル企業グループ。近年では不動産、

レジャー、介護など金属以外にも幅広い分野で事業を全国で展開している。シンコーフレックスはグループの技術開発を担い、先端技術と事業化への研究開発を進めている。